

# 北九州エアターミナル株式会社

## I 法人の概要（令和3年4月1日現在）

### 1 所在地

北九州市小倉南区空港北町6番

### 2 設立年月日

平成元年5月1日

### 3 代表者

代表取締役社長 西田 幸生

### 4 資本金

3,524,000千円

### 5 北九州市の出資金

1,000,000千円（出資の割合 28.4%）

### 6 役職員数

	人 数			
	合 計	うち本市からの派遣	うち本市退職者	うちその他
役 員	11人	0人	1人	10人
常 勤	3人	0人	1人	2人
非常勤	8人	0人	0人	8人
社 員	17人	0人	2人	15人

### 7 市からのミッション

市等との連携による路線誘致等、利用者数の増加に向けた取組を進め、安定的な財務状況を維持し、公共性の高い空港ターミナルビルを安全かつ快適な空間として、航空会社や航空旅客に提供する。

また、路線の拡大等、航空会社の動向に合わせ、的確な施設の増強や改造を行い、市等との連携による路線誘致に繋げる。

さらには、空港ターミナルビル内を活用し、イベントや展示を行い、地域のにぎわいの場としての役割も果たしていく。

## II 令和2年度事業実績

### 1 航空旅客

今期の日本経済は、新型コロナウイルス感染症の世界規模での発生・拡大の影響により、極めて厳しい状況が続いた。

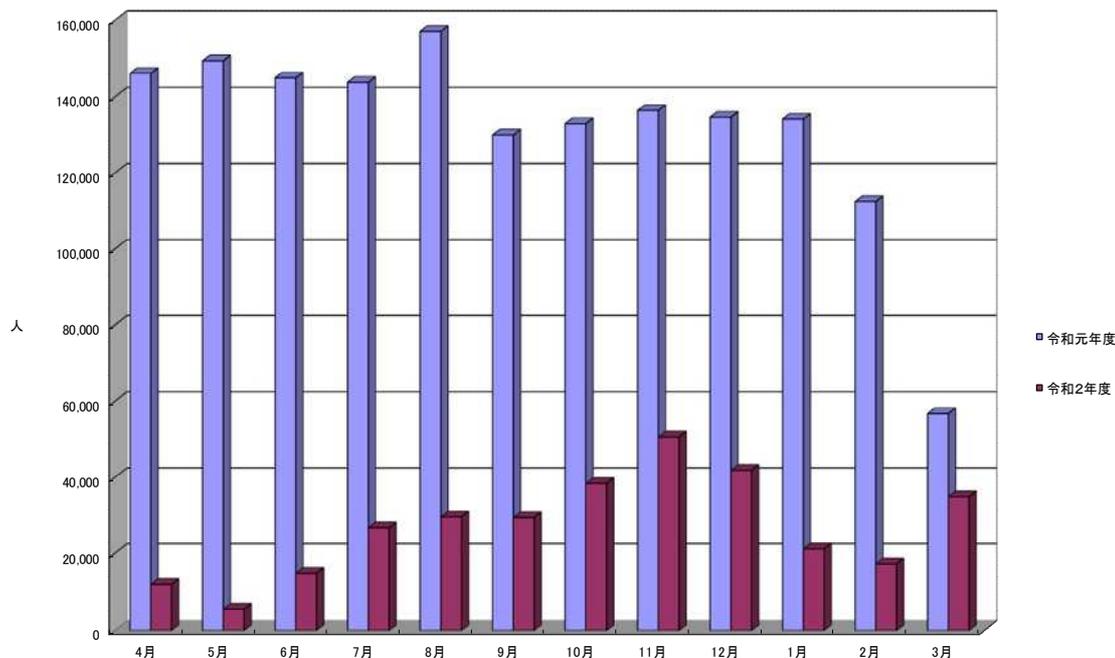
航空業界においては、各国の入国規制や移動自粛等により人の移動が激減したことから、国内線・国際線ともに旅客需要は著しく減退した。

このような状況のもと、当北九州空港においても、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、旅客数は激減した。国内線では、東京（羽田）線の年間旅客数は約318千人（前期比25.3%）となった。また、静岡線は年間を通じて運休となった。沖縄（那覇）線は4月及び夏季のみの運航で、年間旅客数は約4千人（前期比5.4%）となった。この結果、定期路線にチャーター便を加えた年間国内線旅客数は約323千人（前期比23.8%）で、約1,032千人の大幅減となった。

国際線では、年間を通じて、韓国（仁川）線、韓国（釜山）線、台北（桃園）線及び中国（大連）線が全て運休となった。

この結果、国内・国際定期路線にチャーター便を加えた年間総旅客数は約323千人（前期比20.5%）で1,256千人の大幅減となり、新空港開港以来、過去最低の旅客数となった。

#### 【国内・国際線旅客数（合計）の推移】

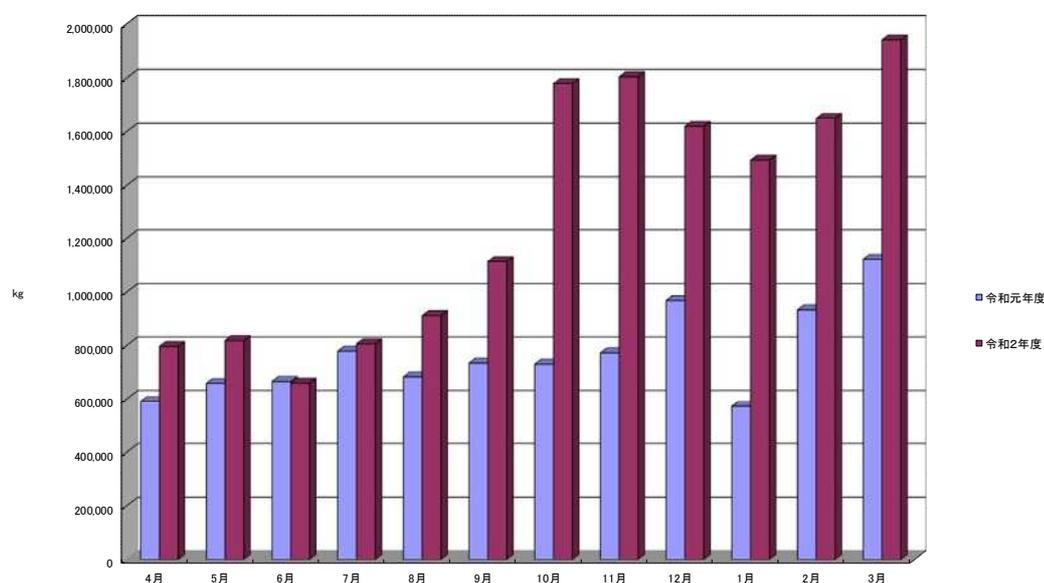


## 2 航空貨物

航空貨物について、国内航空貨物は、年間を通じた旅客便減便の影響により、年間取扱量は約1千7百トン（前期比45.3%）となった。

国際航空貨物は、ANA Cargoの成田→北九州→那覇線が年間を通じて運休となったが、大韓航空の定期路線が10月からは週3往復に増便となり、チャーター便と合わせた年間取扱量は、約1万3千7百トン（前期比249.9%）と大幅に増加し、過去最高の取扱量となった。

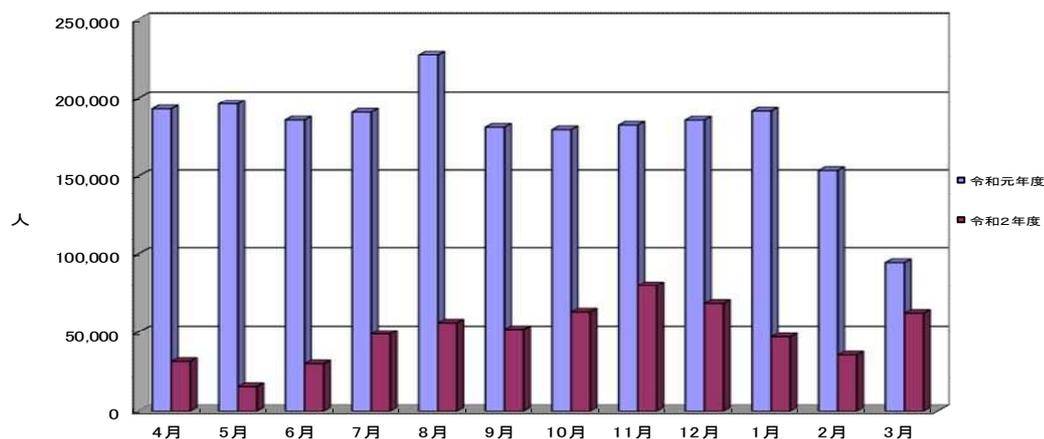
【国内・国際線貨物取扱量（合計）の推移】



## 3 旅客ターミナルビル来館者

年間のターミナルビル来館者は約589千人（前期比27.2%）となった。

【旅客ターミナルビル来館者数の推移】



【イベント実施状況】

開催時期	主 な イ ベ ン ト 名
4月	北九州エアターミナル創立30周年感謝企画 「2020年オリジナルカレンダーフォトコンテスト」入選作品展示
	等覚寺写真展（※ 中止）
5月	グリーンパーク「春のバラフェア」展示（※ 中止）
	宮地嶽神社 菖蒲まつりPR展示（※ 中止）
6月	幼稚園児による七夕飾り（※ 中止）
7月～8月	ナイトトリップ in 北九州空港（各月1回）（※ 中止）
8月	到津の森公園 動物写真パネル展
9月	京築神楽PR展示
	北九州空港まつり（※ 中止）
10月	福智町上野焼PR展示
	北九州空港菊花展
11月	「ふうせんのフリック展」 in 北九州空港
	池坊華空会 初冬の花展
12月	クリスマスイルミネーション点灯式（※ 中止）
	フラワーアレンジメント展示
1月	ぜんざい振る舞い（※ 中止）
	かがやき巡回作品展
2月	ふぐ雑炊振る舞い（※ 中止）
	生け花作品展示（東アジア文化都市PR）
3月	15周年感謝祭
	スターフライヤー「フォトコンテスト」入賞作品展示
通 年	豊前街道新鮮市（※ 中止）

#### 4 テナント売上増に向けた取り組み

長引く新型コロナウイルス感染拡大の影響により国内外の旅客需要の減少を受け、テナント売上への影響が大きい中、テナントへの支援を実施した。

また、テナント店長会議において、航空会社の利用状況や、チャーター便の運航状況等を共有し、販売効率を高める努力を行った。

#### 5 施設整備等

増大する国際貨物取扱量に対応するため、国際貨物テナント倉庫の建設、貨物地上支援機材の整備などを実施した。

また、フライトインフォメーション更新、旅客ターミナルビル内コンコース空調設置工事などを実施した。

#### 6 経営状況

当社の経営については、国内線・国際線が運休や大幅な減便となったため、空港利用者減による施設使用料収入の減少、航空会社やテナント等入居者への減免の実施、家賃収入や管理費収入の減少、直営ラウンジの臨時休業等による売上高の減少等により、当期売上高は約496百万円で、前期と比較し、約447百万円の減収となった。

売上原価、販売費及び一般管理費は、大幅な減収の中、経費の見直しや経費削減を実施し、前期と比較し約128百万円の減少となった。また、営業外収益は約22百万円、営業外費用は約2百万円となった。

以上の結果、税引前当期純損失は約285百万円で、当期純損失は約312百万円となった。

### Ⅲ 令和2年度決算

#### 1 貸借対照表

令和3年3月31日現在（単位：円）

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
<b>【流動資産】</b>	<b>632,919,992</b>	<b>【流動負債】</b>	<b>228,175,957</b>
現金・預金	557,242,360	買掛金	503,567
未収入金	65,262,696	未払金	82,962,278
商品	576,798	一年以内返済長期借入金	59,976,000
貯蔵品	1,475,535	リース債務	1,846,410
前払費用	8,362,603	未払費用	2,180,200
		未払法人税等	8,576,700
		前受金	27,126,936
		預り金	798,386
<b>【固定資産】</b>	<b>3,894,485,227</b>	預り保証金	5,625,480
（有形固定資産）	3,656,213,708	賞与引当金	3,580,000
建物	3,503,610,397	預り建設協力金	35,000,000
構築物	42,325,800	<b>【固定負債】</b>	<b>319,423,405</b>
工具器具備品	80,029,848	長期借入金	95,082,000
機械装置	38,606	預り敷金	28,001,400
車両運搬具	27,670,871	預り保証金	22,954,120
リース資産	2,538,186	長期リース債務	1,002,304
		退職給付引当金	16,120,100
（無形固定資産）	291,819	預り建設協力金	35,000,000
電話加入権	124,984	資産除去債務	121,263,481
水道施設利用権	16,875	<b>負債合計</b>	<b>547,599,362</b>
供給施設利用権	149,960	純 資 産 の 部	
		<b>【株主資本】</b>	<b>4,052,495,857</b>
（投資その他の資産）	237,979,700	資本金	3,524,000,000
投資有価証券	237,679,700	利益剰余金	528,495,857
出資金	300,000	その他利益剰余金	528,495,857
		繰越利益剰余金	528,495,857
		<b>【評価・換算差額等】</b>	<b>▲72,690,000</b>
		その他有価証券評価差額金	▲72,690,000
		<b>純資産合計</b>	<b>3,979,805,857</b>
<b>資産合計</b>	<b>4,527,405,219</b>	<b>負債・純資産合計</b>	<b>4,527,405,219</b>

## 2 損益計算書

自 令和 2年 4月 1日

至 令和 3年 3月31日 (単位：円)

科 目	金 額	
<b>I 売 上 高</b>		495,780,520
売上高	13,130,510	
家賃収入	175,514,796	
管理費収入	143,530,883	
設備使用料収入	123,574,291	
広告料収入	40,030,040	
<b>II 売 上 原 価</b>		3,800,201
<b>売 上 総 利 益</b>		491,980,319
<b>III 販売費及び一般管理費</b>		797,675,375
<b>営 業 損 失</b>		305,695,056
<b>IV 営 業 外 収 益</b>		21,947,076
受取利息	9,162	
受取配当金	9,000	
雑収入	19,708,203	
保険金収入	2,220,711	
<b>V 営 業 外 費 用</b>		1,641,200
支払利息	1,641,200	
<b>経 常 損 失</b>		285,389,180
<b>VI 特 別 利 益</b>		6,667,100
補助金	6,667,100	
<b>VII 特 別 損 失</b>		6,060,999
器具備品圧縮損	6,060,999	
<b>税引前当期純損失</b>		284,783,079
<b>法人税、住民税及び事業税</b>	1,062,235	
<b>法人税等調整額</b>	26,521,197	27,583,432
<b>当 期 純 損 失</b>		312,366,511

## IV 令和3年度事業計画

北九州空港が24時間運用の海上空港であるという特色を活かし、北九州地域の九州・アジアの空の玄関口として、また、人・モノ・サービスの流通拠点として、より一層飛躍・発展するように取り組んでいく。

### 1 航空旅客

航空旅客については、長引く新型コロナウイルス感染拡大の影響により、国内外の旅客需要の回復は不透明であるため、引き続き、行政及び団体と連携をとり、既存航空会社等への支援を行い、路線維持や空港機能の維持に努める。

旅客需要回復時を見据え、行政や団体と連携をとり、PRやキャンペーンを実施する等、集客対策を進める。

ビジネス需要については、オンライン化が進むなど全面的な回復が危惧されるため、今後の動向に注力していく。

### 2 航空貨物

航空貨物については、拡大する国際貨物取扱量に対応するため、地元自治体と連携し、国際貨物上屋の増設に着手するとともに、上屋の運営手法についても検討を進める。

国際航空貨物定期路線の安定的な運航と国際貨物チャーター便の運航を支援するため、行政や団体と連携をとり、引き続き地上支援機材の整備・更新を行う。

滑走路3千メートルへの延伸について、国の環境影響評価(アセスメント)が進められる等、実現に向けて大きく前進しており、今後とも国への要望活動を行っていく。

### 3 ターミナルビル来館者

来館者に安全に、安心して当空港ターミナルビルを利用していただくため、新型コロナウイルス感染症への対応として、引き続き館内における消毒液の設置、利用者及び勤務者へポスター掲示等による手洗いやマスク着用をはじめとする咳エチケット等の感染対策の要請、ロビーチェアの間隔の確保、手すり・エレベータのボタン等の消毒等を実施し感染拡大防止に努める。

人が多く集まる大型イベントは、政府や自治体と連携し、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止する観点から中止を含めた対応を検討する。イベントを開催する場合は、参加人数の制限や入場整理(規制入退場、動線管理、雑踏警備等)の強化などにより、密集回避・感染防止策を徹底する。

#### 4 テナント対応

長引く新型コロナウイルス感染拡大の影響により、国内外の旅客需要の回復は不透明であるため、既存テナントへの支援を引き続き実施する。

#### 5 企業リスク対策

新型コロナウイルス感染症拡大防止に努め、新型コロナウイルス感染症に対応し、事業継続の観点から、随時、テレワークや事務室の分散を実施する。

新型コロナウイルス感染症対策として、マスクや消毒アルコール等の備蓄を行う。

特定天井等の改修の検討を引き続き行う。

#### 6 コスト削減と収益増対策

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、厳しい経営環境であるため、設備投資は必要最小限のものに絞って実施するとともに、更なる経費削減に努める。

広告等収益増に繋がる取組について更に強化していく。

#### 7 駐車場事業（新規事業）

今年度から新規事業として開始する駐車場事業については、空港ビルと駐車場の一体運営により、利用者の利便性向上及び経営効率化を図り、空港全体の利用者増と会社の収支向上に繋げる。

## V 令和3年度予算

収支予算書

自 令和3年4月1日

至 令和4年3月31日 (単位：千円)

収 入	営業収入	売上高	20,000
		家賃収入	214,000
		管理費収入	156,000
		設備使用料収入	178,000
		広告料収入	42,000
		駐車場収入	92,000
	小 計	702,000	
	営業外収入	雑収入等	21,000
	小 計	21,000	
	合 計	723,000	
支 出	営業費用	売上原価	7,000
		人件費	111,000
		減価償却費	265,000
		水道光熱費	58,000
		租税公課	62,000
		地代	83,000
		管理委託費	159,000
		一般管理費	61,000
	小 計	806,000	
	営業外費用	支払利息	1,000
小 計	1,000		
合 計	807,000		
収 入 - 支 出			▲84,000

## VI 役員名簿

令和3年7月1日現在

役職名	氏名	現職
代表取締役社長	西田 幸生	
代表取締役専務	武濤 研二郎	
常務取締役	大脇 正人	
取締役	東 俊明	日産自動車九州株式会社 取締役常務執行役員
〃	柚須 亮太郎	九州電力株式会社 執行役員 北九州支店長
〃	安田 堅太郎	西日本鉄道株式会社 執行役員 西鉄バス北九州株式会社 代表取締役社長
〃	砂川 浩	TOTO株式会社 総務本部長 兼 総務部長
〃	鶴岡 直樹	株式会社ゼンリン 執行役員 社長室長
〃	平尾 智賀志	ANAホールディングス株式会社 グループ経営戦略室事業推進部 上席マネジャー
〃	城野 和幸	苅田町 副町長
常勤監査役	長谷川 英祐	
監査役	米谷 友宏	行橋市 総務部長
〃	井倉 眞	福岡ひびき信用金庫 理事長

